



おかやま環境ネットワーク

NO.66
2012.1

NEWS

発行:(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

新年明けましておめでとうございます。
本年もご支援の程、よろしくお願いいたします。

環境講座 開催報告

Ⅲ. 『水の流動、循環の実態に基づき水資源利用と水環境保全』



奥田節夫氏

11月5日に京都大学名誉教授・奥田節夫氏を講師に開催し、15名が参加されました。

地球の引力と地表の温度のバランスにより地球上にのみ水が水蒸気、液体の水、氷として安定的に存在しています。現在は人間活動による水資源の不足から局地的な国際紛争の恐れさえあります。環境保全に必要な科学的知識の説明と、計画と実行に必要な原則「環境倫理」(理念と実行力)・「科学的手法」(視野の広い学習)・「現実的適応性」(社会的教養)の総合的バランスの大切さを強調されました。

Ⅳ. 『地球環境を守る土壌のはたらき』



山口一裕氏

12月3日に岡山理科大学准教授・山口一裕氏を講師に開催し、16名が参加されました。

地球は太陽系の中で唯一、潤いのある土壌が存在する惑星です。そして土壌は、地球環境を守っています。粘土に注目しながら、土壌のはたらきなどについてのお話や、人間活動に伴う地球規模での土壌劣化の紹介がありました。「万物は土より生まれ出て土に還る」という地球環境の“かなめ”であり、土壌破壊＝地球環境破壊であり、もっと土壌に関心を持とうと、まとめられました。

蛍光管フォーラム 2011 in 岡山 開催報告

蛍光管は、ごみとして出すとき「われる、かさばる、水銀が含まれる」ということで排出する消費者・市民にとっても、処理にあたる自治体にとっても、なかなかやっかいなものです。また、事業所から排出される蛍光管の適正処理も課題です。

この蛍光管の適正処理に向けたフォーラムを11月12日に開催し、26名が参加されました。



NPO 法人コンシューマーズ京都

当日は、NPO 法人コンシューマーズ京都「蛍光管の適正処理のために」、野村興産株式会社「蛍光管リサイクルの現状と課題」、岡山県消費者団体連絡協議会「岡山市の蛍光管リサイクルの取り組み」の事例報告と、貴田晶子・愛媛大学客員教授による講演「我が国の水銀規制の現状と課題」がありました。



貴田晶子氏

●参加者の感想

- ・今まで関心がなかった「水銀」について、改めて考えさせられました。
- ・生活の利便性、文明の向上と反して失ったものの大きさ、負荷について考えさせられました。今1度、生活を見直したいと思います。

No.66 の内容

- I. 環境講座・蛍光管フォーラム開催報告…………… P.1
- II. 寄稿『新年雑感』野上祐作…………… P.2
- III. 寄稿『循環型社会と持続可能な社会』千葉喬三…………… P.3
- IV. 寄稿『再生可能エネルギー政策への転換②』白井浩子…………… P.4
- V. 助成活動報告 御津の「みどり」と「清流」を守る会『宇甘川流域生き物調査プロジェクト』…………… P.5
- VI. ホタルフォーラム開催報告・各種ご案内…………… P.6
- VII. 水環境フォーラム・市民のための環境講座ご案内…………… P.7
- VIII. 各種ご案内、理事会報告等…………… P.8

野上 祐作

新年雑感



昨年は東北地方で大震災が発生し、太平洋沿岸部を大津波が襲った。それに伴い大勢の犠牲者がでた。地震に対する対策はかなり進んでいたようで、聞くところによれば岩手県では地震による怪我人の報告はなかったとか。犠牲者はすべて津波によるものだ。津波に対する対策も行なわれてはいたが、今回の津波の規模は想定外であったという。

人間は地震や津波を阻止することはできない。自然災害とはそういうものなのだ。自然に対する畏敬の念を疎かにしないで、災害が発生したときに被害を最小限に食い止める対策を常に考えておかねばならない。

今回の大震災に付随して発生したもう1つの厄介な問題、福島原発の事故は大いに考えさせられる。さまざまな意見が噴出しているが、周辺に飛散した放射性セシ

ウムについての具体的な対策が考えられていなかったことだけは確かだ。

発生した低濃度の放射性物質を含んだ土壌、落葉などの除染作業は、取り扱いとしては比較的楽であるものの、その量たるや膨大である。それらを減量すれば高濃度の放射性廃棄物となり取り扱いが厄介になる。放射性廃棄物は他の廃棄物と違って、今のところ捨てる場がない。地中深くに穴を掘って埋めるといっても限りがある。つまり、現場では高濃度の放射性廃棄物の最終処分方法が決まらない限り、放射性廃棄物をどの程度の濃度レベルに収めるかが大きなジレンマとなる。

核分裂により発生するエネルギーは限りなく魅力的であり、これを人類文明に利用しないのは愚かであると考えた輩が原子力の平和利用という名目で原発の開発に携わった。核燃料も使用したら当然廃棄物となるが、彼らはその廃棄物処理についてはそのうち考えればよいと見切り発車した。各原発で保管している使用済燃料棒がどんどん溜まっていく中で、「プルサーマル計画」とかを持ち出して使用済核燃料の再利用を行な

うとした。しかし、この計画は未だにうまくいかない。

そうまでして原子力の平和利用を進めなければならない理由はなんだろう。人類の将来のエネルギー問題を解決する切り札とするにはあまりにもお粗末である。科学技術の限りない発展を続けていけば解決できない問題はないという神話は、過去の環境問題の教訓を生かせば、既に崩壊している。

我々にエアコンなどの快適な生活を提供し、20世紀最大の発明品といわれたフロンガス(CFC)によるオゾン層破壊の問題を反省すれば、その優れたものの作り方と同時に壊し方を考えておくべきであった。ポリ塩化ビフェニール(PCB)然り。原子力村の人たちは、原発を稼動する際に、使用済核燃料の処分方法を同時に考えておくべきであった。

新年にあたって、様々な利害関係を超越して人類の英知を結集し、太陽、風、バイオマスなど、廃棄時の後始末の簡単な自然エネルギーの利用システムの開発普及をみんなで志向する年になることを祈念する。

野上 祐作 氏

1943年生まれ

岡山理科大学理学部教授

岡山理科大学環境教育地域支援

研究会代表

(財)おかやま環境ネットワーク

理事

私立大学環境保全協議会顧問等

千葉 喬三

循環型社会と持続可能な社会



昨年の環境講座「環境とは何か」の講座を終えた後、受講された方からいくつかの質問を頂きました。その中に、『循環型社会と持続可能な社会とのちがひ。また、持続可能な開発とはどういうものか』、という大変重要な（と私は思っています）ご質問がありました。

これらの用語は、すでに常用語になっています。その常識について、改めて不明や疑念をいだけ、率直に質問されたことに敬意を表したいと思います。

循環型社会とはどのような社会なのか？持続可能な社会とは何を指しているのか？持続可能な開発とはどんな開発なのか？少し考えてみれば、その内容を明確に説明し、まして実態を作り出すことは容易でないことに気づきます。

「循環型社会」にはきちっとしたモデルがあります。地球が40数億年かけて作り上げたシステム—生態系です。この自然生態系に

おけると同様、人間社会においても、人間社会を構成する物質群が人間の活動全体を通じて過不足、遅滞なく移動し、そして活動に使われた種々のエネルギーが熱として蓄積せず外界へスムーズに放出される、という動的平衡状態が維持されておれば、それが循環型社会です。

しかし、お気づきのように、現実の人間社会では物質もエネルギーも動的平衡状態とは全くかけ離れた移動をしています。「循環型社会」の「循環」は、単なる希望的な思い込み、否、目くらましという意味では、悪質な言葉の濫用、とすらいえます。恐ろしいことは、こんな得体の知れない言葉をあたかも意味があるように使うことで、結果的には意味しようとする「環境が保全されている状態」と全く逆の状態を作り出すことにつながるのです。

「持続可能な社会」、「持続可能な開発」にいたっては、私にはほとんど理解不能です。これらの用語は、1987年に国連環境開発世界委員会（通称ブルントラント委員会）が「持続可能な開発（Sustainable Development）」という先進国にとって都合良い、ただただ政治的必

性から提唱された概念ともいえないお題目のようなものから始まったものです。

そもそも「持続」とは何を持続させるというのでしょうか？すべての人間活動は必然的にエントロピー（エネルギーと物質の汚れ）の増大を引き起こします。そして、エントロピーが増大すれば、生命、生産、組織、社会などすべてがその活動が停止する、すなわち「持続」とは真反対の現象を引き起こすのです。このエントロピーを減少させるシステムは、自然生態系を核とする全地球システムしか存在しないのです。大事なことは、その中に現今の人間活動はもともと組み入れられていないのです。従って、「持続可能な社会・開発」などの用語は恣意による言葉の濫用以外何者でもありません。

経済行為を膨らます（すなわち開発）ことで、エントロピーの増大を処理（減少・移動）したように錯覚させることにより、もともとできないことをあたかもできるように見せかけるためのトリックです。

千葉 喬三 氏

1939年生まれ

学校法人就実学園理事長

農学博士（京都大学）

(財)おかやま環境ネットワーク

理事(前理事長)

白井 浩子 一緒に考えましょう、再生可能 エネルギー政策への転換② —私たちが身近に取り組めること—



今回から、「メタン醗酵設備を自分たちで作り、有機農業とメタンガス発電を進める」という活動についての報告です。

きっかけは、「メタンガス利用の研修会を埼玉で開くから参加いかが」という投稿が、或る農業関係のメーリングリスト (ML) に載ったことです。ちょっと話はそれますが、ご承知でしょうか、世界で農業が、主にアメリカのアグリビジネスに牛耳られている状況があります。でも、他方ではそれに対抗して健全な農業を進展させようという世界での運動もあります (健全とは、経済価値を目指すだけでなく、地域の環境も整え、文化も大事に、という意味です)。「牛耳る」とは、「種子も、農薬も、肥料も、その企業から買い続けるように余儀なくされる」という、いわゆる「緑の革命」といわれる内実です。後でお話します。

白井 浩子 氏

1943 年生まれ
横浜市出身
元・岡山大学教員 (生物学)
第 14 回猿橋賞受賞
現在、余剰進化論を提唱
(財)おかやま環境ネットワーク
理事

ともかく、その農業関係の ML に上記のメタンの投稿があったので、これこれと思い、皆さんに呼びかけましたところ、川崎医療短期大学の姜・波 (きょう・は) 教授 (女性) が賛成してくださり、大人二人ですが何だか遠足のように楽しく行ってきました。まだ、日差しの暑い夏でして、夜 11 時に岡山駅前から夜行バス、明るる日研修会に参加し、その夜もまた夜行バス、という強行軍でした!

何と全国から 50 人以上も参集しました。ずいぶん若い人も多かったです。ただの農家の中にその 50 人が上がりこみ、畳に座って解説を聞きました。大変気に入ったのは、「私たちは地域で人々の繋がりを作りつつ、できるだけ物事を自分たちでやります」という点です。それでむしろあえて大規模にしません。大企業が参入してくると、小回りの効く自分たちのアイデアも生かされにくく経費的にも問題もある、というのです。自由に質問などしながら、パワーポイントの映像を参考に、醗酵槽を作り上げていく過程の解説を聴きました。

参集した人々の中には、近く仲間とやり始めよう、という人が

きっといるだろう、と思われました。私の面白かったのは、最少規模は、との質問の答えで、10 リットルほどの容器で試みた、ということです。これはぜひ、やってみたいと思いました。

醗酵層は、小規模なら円筒形です (連載 1 回目の右下の図が槽の外観)。建設作業はまずは、醗酵槽を作る、と決めた地面に、円形床が置かれる穴を掘ることです。その底から円筒形の壁をコンクリートで立ち上げる、上部のドームをコンクリートでつくる、などなど。コンクリートを流し込む木枠など、何回もみんなで使い回すように保管しておきます。作業は、近隣でメタンガスを利用しようとする人々が協働でします。槽の規模が 10 立方メートル規模で、およそ 20 日程の工程です (数人の共同作業で)。工事は集中して進めるので、寝泊りも一緒にします。大掛かりな工作という感じで楽しい気がしました。

次からは、規模 (醗酵槽、投入廃物、など) や、ガスや液肥の利用の実際、国内外でのエネルギー自給、建設の実際など、順にお話します。

御津の「みどり」と「清流」を守る会 「宇甘川流域生き物調査プロジェクト」

1. 事業紹介

①. 河川生物調査を実施

2010年10月30日大野川調査（午前）、宇甘川調査（午後）、参加者70名。

②. 猛禽類調査を実施

2011年1月26日第1回講習会、参加者24名。2月12日第2回講習会、参加者18名。19日第1回定点観測、調査員23名。26日第2回定点観測、調査員22名。3月5日定点観測まとめ会、参加者15名。12日オオタカ営巣集中調査1、調査員16名。13日オオタカ営巣集中調査2、調査員10名。26日オオタカ営巣集中調査3、調査員14名。オオタカ営巣集中調査は記載した日程以外にも、少数・個人で随時行いました。

各調査終了時にはミーティングを行い、次回の調査ポイントなどを打ち合わせしました。

2. この活動によって達成された成果

地域住民と専門家が共同で調査を行うことで、お互いの持つ情報と知識が繋がりを見せ、良い成果を残せたと思います。成果が出ることにより、地域全体に野生動植物、自然環境に対する興味が広まりました。

①. 河川生物調査

地区住民の「谷川で、川にいるドジョウとは違うもの昔見たことがある」との話から、NPO岡山淡水魚研究会が追加調査を実施したところ、大野川支流部でナガレホトケドジョウ（絶滅危惧ⅠB類EN）を確認しました。



ナガレホトケドジョウ
(絶滅危惧ⅠB類)

②. 猛禽類調査

猛禽類についての知識がなかった者が、専門家からの講習や指導を受けることで、猛禽類への興味も増し、猛禽類の種類の判別がある程度行えるようになり、調査方法についても理解することができました。

2回行った定点観測では、オオタカ（絶滅危惧Ⅱ類VU）、クマタカ（絶滅危惧ⅠB類EN）、ハイタカ（準絶滅危惧NT）、ノスリを確認し、オオタカ、クマタカについては、複数のポイントで行動が繋がり、利用域の特定がある程度行えました。

また、地域の地形を再確認する

こともできました。

調査を行った地域では、以前にオオタカの営巣が確認されています。今回の調査結果からみて、営巣の可能性が非常に高いことから、産卵に向けて警戒が強まるまでの期間、オオタカ営巣集中調査を行うこととなります。

営巣集中調査を3回行いましたが、成果を上げることはできませんでした。今後も継続して営巣調査を実施しますが、オオタカの警戒が強まる時期になるので、少人数での調査を主体に行っていく予定にしています。

猛禽類調査を実施中には、猛禽類以外の鳥類に度々出会うことのできることから、鳥類全体についての知識を深める必要性を感じました。

また、猛禽類調査は広いエリアを対象に行うため、地域の特徴ある地点で新たな発見を行うことがあります。今回の猛禽類調査では、地域ため池でイチョウウキゴケ（絶滅危惧Ⅰ類）を岡山野生生物調査会が確認することに繋がりました。



第9回おかやまホタル フォーラム開催報告



当日は大雨の中大勢参加いただきました

11月19日、倉敷市児島由加の琴浦北小学校で開催し、23団体76名が参加されました。

地元蛭遊会の生田岩雄さんの司会で開始し、青山勲理事長の開会挨拶、倉敷市環境政策部次長・國枝稔さんの歓迎挨拶に引き続き、講演と報告を行いました。

川崎医療福祉大学の梶田博司教授から「岡山県内のホタル事情」と題して記念講演がありました。



梶田先生 講演

昨年出版した単行本「ホタルと人と文化」を執筆する中で明らかになった県内のホタルの種類や生息環境などの紹介がありました。津山市や西大寺の人口密集地を流れる吉井川、2つの大ダムで堰き止められる旭川、石灰岩地帯を流れる高梁川が岡山の川の特徴。県指定の天然記念物は、滝川のホタル、郷のゲンジボタル、哲多のヒメボタルの3つ。高梁川の水はカルシウムが含まれるせいでカワナノ殻が丈夫。県内には3種の光るホタルと6種の昼行性のホタルがいると書いたがスジクロベニボタルの存在を指摘され、今後は10種と訂正するなどのエピソードも交えたお話でした。

倉敷市水島支所の岡本勇さんから、「児島由加のホタルについて」のお話がありました。「蛭遊の水

辺」改修当時児島支所に勤務し設計から携わり、自然を残した水路にするための工法や水路拡張で出た土を川床に埋め戻すなどの工夫を紹介。またゲンジ、ヘイケ、ヒメが棲む由加のホタルとその一生の話がされました。

唐松ホタル同好会の三輪哲也さんからは「ヒメボタルと身の上ばなし」のお話。10年間ヒメボタルを追いかけて県内100ヶ所の生息地を自身で観察し調査、今も継続中。最古の写真や観察記録の紹介、幼虫のすみかや国内の分布地域の報告もありました。自身撮影の50枚の写真を展示、ネットワークに寄贈されました。

ついで、「矢掛高校とホタル」のお話が矢掛高校教諭・室貴由輝さんからありました。元は矢掛商業高校で始めた環境教育でしたが合併で矢掛高校に引き継がれ、同校では学校設定教科として「環境」があって全校生徒が学び、授業を通じて意識の高まった生徒が作るグループ「川レンジャー」の活動を紹介します。ホタル研究をはじめ、河川の保全活動、水質調査活動、スイゲンゼニタナゴの保護を行っているそうです。

蛭遊会会長・国重紀元さんの閉会挨拶のあと昼食休憩に入りました。

館内のホタル幼虫の飼育水槽や、ホタルの写真やパネル、活動報告資料、琴浦北小学校児童の活動パネルや川柳などを見ながら、情報交換や交流をしました。

午後からは2kmほど離れた「蛭遊の水辺・由加」に移動し、蛭遊会の方の案内で見学を行いました。



現地「蛭遊の水辺」

ホタル団体交流会のご案内

県各地の団体あるいは個人でホタルの保護、復活、再生をめざす人々にお集まりいただき、年3回ホタル団体交流会を開催し、取り組みの交流をすすめています。

どなたでも参加できます(無料)。ホタルに関する交流をすすめ、環境保全活動のネットワークをひろげましょう。

◇日時：4月21日(土)10～12時

◇場所：オルガ4階スタディ

◇内容：各地の取り組みの交流、フォーラム企画検討

◇申込：資料・会場の準備のため必ず事前にお申込ください。

「第三回おかやま環境シンポジウム」のご案内

地域の環境、産業の現状を語り合い、今後の地域づくりの手がかりを探ります。

今回は「山と海をつなぐ川の役割」について考え、各地の情報交換、交流をすすめます。

◇日時：1月28日(土)

13時～16時30分

◇場所：オルガ5階スカーレット

◇参加費：500円

◇定員：50名(先着順)

◇内容：

- ・基調講演『豊かな自然を取り戻そう』市原広生さん・岐阜県「NPO法人長良・自然とくらし楽校」
- ・報告①『岡山の川について一緒に考えましょう(仮)』友延栄一さん・岡山の自然を守る会理事
- ・報告②『川と海とのつながり～河川からの栄養塩～』高木秀蔵さん・岡山県農林水産総合センター水産研究所水圏環境室
- ・報告③『共生の川づくりへー企業としての取組み事例』大月隆行さん・ランデス株式会社代表取締役社長
- ・参加者との意見交換

◇申込：資料・会場の準備のため必ず事前にお申込ください。

第4回水環境フォーラムのご案内

～ 台風12号に伴う大出水の 「旭川中下流域の生態系」への影響 ～

- ①. 日時：2月11日(土)13時20分～16時40分
- ②. 会場：オルガ5階『スカーレット』
- ③. 参加費：無料（懇親会は会費：2,000円）
- ④. 定員：40名（先着順）事前に必ず申してください
- ⑤. 申込：氏名・住所・電話・懇親会参加有無を FAX・郵送・E-mailでご連絡ください
- ⑥. 主催：(社)日本水環境学会中国・四国支部岡山地域分科会、共催：岡山理科大学環境教育地域支援研究会、(財)おかやま環境ネットワーク
- ⑦. 内容(予定です)：
 - 「台風12号による大出水の特徴と被害（過去の
大出水と比較して）」国土交通省岡山河川事務所
 - 「大出水時における河川水位と水温の変動」岡山
理科大学理学部・久保秀敏氏・北岡豪一氏
 - 「大出水に伴う中下流域における水質と河床地
形の変化」岡山理科大学理学部・山口一裕氏
 - 「中流域の魚類相に対する大出水の影響」岡山理
科大学理学部・齋藤達昭氏
 - 「中下流域の水生昆虫相に対する大出水の影響」
関西高等学校教諭・吉鷹一郎氏
 - 総合討論
- ⑧. 懇親会：17時～19時
会場：居酒屋「未完成」岡山駅西口（徒歩3分）
会費：2,000円

..... キリトリ

第4回水環境フォーラム 参加申込書

ふり 氏 氏名	
電 話	
住 所	〒
E-mail	
FAX	
懇親会 参加	する ・ しない

市民のための環境講座のご案内

～ 自然災害から学ぶ 気象 ～

おかやま環境ネットワークでは東日本大震災を受け、市民が自分でリスクを理解した上で判断し行動できる力や、情報を読み取る力をつけることを目的に講座を開催します。

今回のテーマを「気象」とし、過去の気象と現在の気象の違いや、その違いの原因などについてお話いただく予定です。

◆講師：加藤 内蔵進 氏
 岡山大学 大学院教育学研究科・自然教育学系
 准教授
 理科教室（気象学研究室）
 大学院自然科学研究科先端基礎科学専攻兼任

- ①. 日時：4月14日(土)10時～12時
- ②. 会場：オルガ4階『スタディ』
- ③. 参加費：無料
- ④. 定員：40名（先着順）
事前に必ず申してください
- ⑤. 申込：氏名・住所・電話を FAX・郵送・E-mail
ご連絡ください

..... キリトリ

市民のための環境講座 参加申込書

ふり 氏 氏名	
電 話	
住 所	〒
E-mail	
FAX	

環境講座のご案内

- ①. 会場：オルガ
- ②. 時間：10時～12時
- ③. 受講料：無料
- ④. 定数：40名（要申込、先着順で受付、定数を超過し参加いただけない場合のみ連絡します）

◇第Ⅵ回講義 2/18（土）
『環境に関する法律と環境省の行政』
講師：柄本廣宣氏・環境省中国四国地方環境事務所

地球誕生から46億年。私たち産業革命以後の人間は、地下資源を使うことによりたった200年で発展し、すぐに人類存亡の淵に立つという人類史でも稀な世代を生きています。本講は環境問題の特徴に応じてどのように法制度が制定されてきたのか考察を加え、持続可能な社会を目指した仕組みづくりについて考えていきます。

◇第Ⅶ回講義 3/3（土）
『自然と人間の共生を図ること、持続可能な社会構築のために』
講師：青山勳氏・岡山大学社会連携本部本部長（おかやま環境ネットワーク理事長）
持続可能な社会づくりのため、「環境・人間・文化」の問題を考えます。後の1時間を「自然と人間の共存のための環境倫理」についてみんなで議論し、ディベートを行い、自分の考え方を身につけましょう。

会員 募集中

- ぜひ会員となり、活動をご支援ください。
- ・年会費
個人・団体：2,000円
企業等：20,000円
学生：無料（大学生、大学院生、高校生、就職時は対象外）
 - ・お申込、お問合せは事務局まで

12月度理事会報告

12月理事会にて、以下の事項が承認されました。

1. 日本科学者会議主催「第19回総合学術研究集会」後援
2. (社)日本水環境学会主催「第4回水環境フォーラム in 岡山」共催
3. 2012年度助成事業
4. 定款変更案、諸規程案
5. 公益法人移行後の評議員名簿
6. 2012年度年間主要日程
7. 2011年度事業報告と2012年度事業計画1次案

◆2012年度（第14回）助成事業が承認されました。

1. 里海づくり研究会議『シンポジウム「日生を里海に」アマモと牡蠣の海～ひなせ千軒漁師の里～』
2. 千年の森づくりグループ『千年の森の管理・保育事業と美咲の森完成記念のつどい』
3. おかやまエコマインドネットワーク『食とエネルギーの地産地消を考える』
4. 中学高校環境研究会『第3回旭川源流大学 in 津黒高原』
5. あかいわ美土里の和『里山再生プロジェクト』
6. おかやまコープ美作エリア『バイオマスって知ってる？』

◆2012年度ネットワークのつどい
2012年6月30日(土)13～16時、オルガホールにて開催します。

2011年度の助成を受けた団体、2012年度助成を受ける予定の団体の皆様は、必ずご出席ください。※環境に関する取り組みをすすめている団体、企業等の交流をすすめます。誰でも参加できます（詳細は次回ニュースにて）。

環境家計簿モニターの皆様へ

2011年の実績報告の締切を2012年1月末としておりますので、お早目に提出くださいますようお願いいたします。

事務局退任のご挨拶



荷物を整理中キャンプでの子どもの感想文が出てきました。「未知の生きものゲット」の言葉や虫の精密画など自然に触れた喜びが伝わってきます。この自然を孫やそのまた孫に残せるだろうか。

環境保全をめざすおかやま環境ネットワークに集まった方々と、環境講座、エコファミリー講座、ホテルの交流、シンポジウム、学習会、見学会などなど沢山の企画をご一緒することができました。

「ホテルと人と文化」の出版、助成活動報告集「おかやま環境ネットワークがささえた環境保全活動（1999～2008）」の作成に関わられたことも喜びです。

皆様のご支援ご協力があったてすすすめてくることができました。本当にありがとうございました。

黒岩 基之子

.....
 ・2011年度会費をまだ納付いた
 ・だいていない会員に振込用紙
 ・を同封しております。お振り
 ・込みくださいますよう、お願
 ・いいたします（入れ違いでお
 ・振り込みいただいております
 ・たらご容赦ください）

■お問い合わせは
 (財)おかやま環境ネットワーク
 〒700-0026
 岡山市北区奉還町1-7-7(オルガ6階)
 TEL/FAX 086-256-2565
 E-mail:kankyounet@okayama.coop
 HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

かけがえのない地球、未来のこどもたちへ！